

# 欧州 ～EU再建のドリーム・チーム～

経済調査部 主席エコノミスト 田中理(たなか おさむ)

## EUの主要ポストが総入れ替え

今年後半は欧州連合(EU)の主要ポストが総入れ替えとなる。なかでも注目を集めるのが、①EU内の政策を立案・執行する行政府で、約2万5千人のEU官僚を指揮する欧州委員会の委員長、②国際的な場でEUを代表し、時にEU大統領と称される欧州理事会(EU加盟国の首脳で構成され、EUの政治指針を定める最高意思決定機関)の常任議長、③EUの単一通貨ユーロの番人で、域内の金融政策を一元的に担う欧州中央銀行(ECB)の総裁、の3ポストの行方だろう。

これだけEUの重要ポストの交替が重なるのは珍しい。①は現在、ルクセンブルク首相やユーロ圏財務相会合(ユーログループ)議長を歴任したユンケル氏が務め、10月31日に5年の任期を満了する。②は従来、EU加盟国の首脳が半年毎の輪番制で務めてきたが、2009年のEU基本条約改正で常任議長として新設され、元ベルギー首相のファンロンパイ氏が初代議長に就任した。元ポーランド首相のトウスク氏が2014年に二代目議長に就任、2年半の任期を2回務め、11月30日に退任する。③は単一通貨の発足に伴い1998年に創設され、オランダ中銀総裁出身のドイセンベルク氏、フランス中銀総裁出身のトリシェ氏の後を継ぎ、2011年にイタリア中銀総裁出身のドラギ氏が三代目の総裁に就任し、10月31日に8年間の任期を終える。

## 消えないメルケル待望論

EUの主要ポストの人選は人物本位を建前としながら、実際には特定国の出身者がポストを独占することがないよう、加盟国間のバランスが配慮される。前述の①は、5月23～26日にEU各国で行われる欧州議会選挙の結果を踏まえ、欧州理事会の特定多数決(加盟国の55%以上、人口構成比の65%以上の賛成多数)で候補者を指名し、欧州議会の過半数で選出される。ユンケル氏の選出時は、欧州議会の最大会派の筆頭候補が委員長候補に指名されたが、今回もこの方式が採用されるかは決まっていない。現最大会派の筆頭候補はドイツ出身のウェーバー氏だが、フランスのバルニエ元外相を推す声も多い。②と③は欧州理事会の特定多数決で選出される。②はこれまでドイツやフランスなどの大国からは選ばれていない。

ドイツが順当に①のポストを手に入れる場合、②は小国出身者が就き、③はフランス出身のビルロワドガロ中銀総裁やクレーECB理事が有力となる。フランスが①のポストを手に入れば、③はタカ派で知られるドイツ連銀のバイトマン総裁が浮上しそうだ。②のポストには、ドイツのメルケル首相の待望論もしばしば聞かれる。その場合、③はフィンランド中銀のリイカネン前総裁やレーン総裁が有力となる。ドイツとフランスの大物政治家がタッグを組んでのEU再建には夢がある。ドリーム・チームの結成を見てみたい。

### 資料1 今年注目のEU人事の主な候補者

役職 (任命方法)	欧州委員会委員長 (欧州議会の過半数)	欧州理事会常任議長 (欧州理事会の特定多数決)	欧州中央銀行総裁 (ユーロ圏首脳の特定多数決)
現在	ユンケル (ルクセンブルク)	トウスク (ポーランド)	ドラギ (イタリア)
筆頭候補制	ウェーバー (ドイツ)	グリバウスカイト (リトアニア)	ビルロワドガロ/クレー (フランス)
折衷案	ロワゾー/バルニエ (フランス)	グリバウスカイト (リトアニア)	バイトマン (ドイツ)
ドリーム・チーム	バルニエ (フランス)	メルケル (ドイツ)	リイカネン/レーン (フィンランド)

(出所)第一生命経済研究所が作成